

平成22年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点40点）

D社の財務諸表と同業の業界中位企業の財務諸表をもとに、財務指標からD社の長所または短所を発見する経営分析能力を問う問題である。

第2問（配点25点）

（設問1）

製品の納入価格の低下と受注量の増加を受けて損益分岐点売上高がどのように変化するかについて、動的に分析する能力を問う問題である。

（設問2）

損益分岐点分析の結果をもとに、納入価格の引き下げの大きさと受注量の観点から分析する能力を問う問題である。

第3問（配点20点）

（設問1）

設備投資を行うことで原価の引き下げが可能である状況で、この設備投資のNPV（正味現在価値）を計算し、同時に損益分岐点売上高に与える影響を分析する能力を問う問題である。

（設問2）

設問1の結果にもとづいて投資案の採否を判断する能力を問う問題である。

第4問（配点15点）

（設問1）

将来の金利変動によって、保有債券の価値にどのような影響が出るか、そのリスクについて分析する能力を問う問題である。

（設問2）

将来のプロジェクトに向けた資金運用として、債券を保有している状況で、将来キャッシュフローを踏まえて金利リスクを管理する方法について問う問題である。

以上